

## 応援ありがとうございました 東都大学野球 一部返り咲きならず 秋季リーグ戦に期待



▲力投したエース深澤(撮影・高橋)



▲山下理事長も応援(中央)、松浦専務理事(左)、今福常務理事(右)

9勝4敗・勝ち点4で2部優勝を果たし、入れ替え戦に挑んだ専大。接戦をものに出来ず、日大に1勝2敗と敗れ、惜しくも1部返り咲きを逃した。しかし、確かな手応えをつかみ、今秋再び神宮での熱戦に期待が高まる。

決して平坦な道のりではなかった。昨年までのスキの無い投手陣、破壊力のある打線は影を潜め、2部優勝すら危ういのではと思われた。しかし、厳しい戦いの中、エース・深澤季生(経営2・藤嶺藤沢高)の成長、打撃陣は日替わりでヒーローが生まれるなど、全員でチームを支えていくムードが芽生えた。

入れ替え戦では、日大を相手に3戦いずれも大接戦となったが、日大の左腕エース・那須野巧の意地の3連投の前に打線が沈黙。紙一重で1部復帰を逃した。

松元政樹主将(商4・明德義塾高)は「実力差は感じなかった。あとは精神面の差。秋にまた神宮に戻り、後輩へ置き土産を残したい」と秋季リーグ戦に闘志をみなぎらせた。今秋の

リーグ戦に期待したい。

### 【日大1回戦】

4回、森拓男(商3・東福岡高)の本塁打で同点。5回到照沼大(経営3・茨城東高)の3塁打で勝ち越し。9回、同点のピンチもレフト・長谷川勇也(商1・酒田南高)の好返球でタッチアウト。3-2。

### 【2回戦】

再三の好機を生かせず0-3。

### 【3回戦】

5回、芦沢明(経営2・日本航空高)の本塁打で先制するも9回、逆転タイムリーを打たれ、1-2の敗れた。(岩谷純一・文2)

[6月15日/ニュース専修16面]

## 馬術 チームワークで連覇 森裕悟が最優秀選手に



▲浅見恵一主将の鮮やかな飛越

関東学生馬術争覇戦(障害)

が5月10、11日にJRA馬事公苑で行われ、専大は見事2年連続優勝に輝いた。

「ミスもあったが、皆で補えたことが良かった」と浅見恵一主将(商4・金光大阪高)が語るように、今大会はチームで助け合う場面が多かった。予選から順調に勝ち進み、決勝で強豪・明大と対戦。2対2の同勝ち点の中、5番手はキリマンジャロ号・浅見主将。序盤、1つバーを落とすものの、途中で

リズムを立て直すと、一気に駆け抜け、ゴール。僅か2.37秒差で勝ち点を奪う。最終走者ウィニングエッチ号・森裕悟(商2・関東第一高)もノーミスで通過し、勝負を決めた。

また、全試合を通して安定した騎乗を見せた森は、最優秀選手にも選ばれた。

試合後、浅見主将は「今大会で各自が悪い所を確認出来たと思う。この教訓を生かしたい」と気持ちを今月26日から始まる関東学生馬術大会に切り替えていた。この勢いで昨年の関東学生を制した明大という壁を乗り越えてほしい。(山室綱寛・文3)

[6月15日/ニュース専修16面]

## 道慶 緩急自在のストローク 関東学生テニストーナメントで優勝



▲ねばり強いストロークで決勝戦を制した道慶知子

関東学生テニストーナメントが5月12日から18日まで、昭和の森テニスクラブで行われ、シングルスで道慶知子(経済4・四天王寺高)が優勝を果たした。

今大会、調子が悪く、大会途中での棄権も考えていた道慶。しかし、持ち前の粘り強さで勝ち進んでいき、決勝で筑波大の松井と対戦した。

第1セットから激しいラリーの応酬を繰り返したが、相手の力強いストロークに揺さぶられながらも、緩急を織り交ぜて応戦し、6-3で第1セットを奪った。

続く第2セットもシーソーゲームとなった。第9ゲームから相手に連取され、第2セットは5-7と奪われた。

最終セット序盤は相手ペースだったが、深いボールで相手を揺さぶり、ペースを取り戻す。このまま一気にゲームを連取。6-3と最終セットをものにし、見事優勝を勝ち取った。

また、女子ダブルスでは、大川香奈(文1・富士見丘高)・石原伶奈(文1・静岡市立高)ペアがベスト8入りし、1年次生ながらも健闘した。(幸脇健太・文3)

[6月15日/ニュース専修16面]

[【ニュース専修ウェブ版トップに戻る】](#)

## さらなる飛躍を!! 関東大学男子バスケ3位



▲優秀選手賞の中川和之



▲長澤晃一のパワフルなゴール下

第52回関東大学バスケットボール選手権が5月17日から6月1日まで代々木第2体育館で行われ、専大は3位に終わった(優勝=日大、準優勝=大東大)。

トーナメント方式で争われる今大会。シード校の専大は5回戦から出場し、東京成徳大、拓大、中大に勝利し、

順調に勝ち進む。続く日大戦で72-94と敗退。法大との3位決定戦に挑むこととなった。

法大戦は、互角の展開のまま前半4点リードで折り返す。第3クォーターには相手の3ポイントシュートが爆発し逆転されるが、第4クォーターに中川和之(経済3・豊浦高)が大事な時間帯で8点をたたき出し、専大が再逆転し77-71で勝利した。

新関光一監督は「まだチーム達成度は低く、課題は多い」と語った。

チーム力を高め、チームとしての強さを身につけた時、更なる飛躍を見せてくれるだろう。(井上寸子・文2/写真・山室綱寛・文3)

[6月15日/ニュース専修16面]